

一夏を越えて菊の大輪を咲かす

ビッグウィーク号菊花賞優勝

10月24日、京都競馬場で開催された「第71回 菊花賞」(GI 芝3000m)をカントリー牧場生産のビッグウィーク号(牡3歳 父バゴ 母タニノジヤドール)が、7番人気の低評価を覆す快走を見せ、見事優勝を飾りました。

この日は、午後から降り始めた雨で、馬場は若干の湿り気を帯びていたものの、良馬場発表のまま発走の時間を迎えました。

6番枠から絶好のスタートを決め、そのまま一旦は先頭に立つも、外からコスモラピュタ、カミダノミがかわしに来ると鞍上の川田将雅騎手は手綱をガッチリと押さえ、単独の3番手で折り合い、レースの流れに乗りました。

最後の直線では、道中後続を大きく引き離して逃げたコスモラピュタを残り200mでかわして先頭に立つと、最後は追い込んできた武豊騎手騎乗の1番人気オーズキングダムに1馬身4分の1の差をつけ、ゴールを駆け抜けました。

また、カントリー牧場はこの勝利で、皐月賞(1970年タニノムーティエ)、日本ダービー(2007年ウオッカ他3勝)、と今回の菊花賞にビッグウィークが優勝したことにより、生産牧場として3歳牡馬クラシック三冠制覇の快挙達成となりました。



菊花賞優勝おめでとうございます。

持てるスピードを遺憾なく発揮

スマートファルコン号JBCクラシック優勝

11月3日、船橋競馬場で開催された「第10回 JBCクラシック」(JpnI ダート1800m)を岡田スタッド生産のスマートファルコン号(牡5歳 父ゴールドアリュール 母ケイシユウハーブ)が、2着の1番人気フリーオーソに7馬身もの差をつける圧巻の走りで、優勝しました。

レースは、大外13番枠からスタートした直後、鞍上武豊騎手の手綱のアクションに応じて先頭を奪うと、2コーナー過ぎからは軽快に飛ばしながら、徐々に後続との差を広げていき、3コーナーでは3馬身、4コーナーでは4馬身とコーナーごとにその差を広げ、直線半ばでは既に勝負の体勢は決し、最終的には冒頭にも記した通り、7馬身差でのゴールとなりました。

積み上げた重賞勝鞍の数は、実に11勝。その11勝目が嬉しいJpnI初制覇となったことに加え、前走、同じ船橋競馬場ダート1800mで開催された日本テレビ盃(JpnII)では、フリーオーソに負けていたため、今回は自らの持てるスピードを遺憾なく発揮した大一番での会心の勝利となりました。

今後は、11月24日に浦和競馬場で開催される浦和記念(JpnII ダート2000m)が目標となり、これがスマートファルコン今年最後のレースとなる予定です。

※6馬身差の圧勝を飾りました。



スマートファルコン号の来年の活躍にも期待です！